

与論島の活性化のために

鹿児島大学 教育学部家政専修 1年 0716590079 佐藤莉子

私がこの講義を受講しようと思ったきっかけは、離島の多い鹿児島県の大学に来て、この鹿児島大学でしかできないことを経験したいと思ったことと、前期の講義の中で奄美群島の民俗文化について学習したので、それを現実に自分で見たり聞いたりして確かめたいと思ったことである。しかし実際、奄美の民俗文化という講義を受けていても、与論島に関する知識はこの講義に参加するまではほぼ無く、沖縄のすぐとなりだから海がきれいなんだろうな～といったイメージしかなかった。今回、4日間の滞在の中で、与論島という島のしくみについて、行政、農業、漁業、文化など、様々な分野から学び、そこから、これからの与論島の活性化のために町ができること、県ができること、そして、私ができることとは何かについて、考えたことを提案したい。

まず、島外の人々が「与論島に行きたい」と思える島にすることが、一番の課題だと感じた。きれいな海を見たい、南国の暮らしを体感したい、という目的ならば、わざわざ与論島に来なくても、交通の便が良く、施設設備も充実している沖縄に行けば良いと人々は考えてしまう。私自身もそう感じた。与論島でしかできないこと、与論島にしかないものをもっとアピールしていく必要がある。今、与論島に関する情報を、ネットや書籍、テレビなどで見かけることはほとんどない。ネットが発達した情報社会の現代だからこそ、情報機器をうまく活用して、与論島の魅力を社会に発信していくことが重要だと思う。その中で、与論島のすべてを伝えるのではなく、今回、私自身が実際に与論島に行くことで知ったこと、思ったこと、感じたことがあったように、実際に与論島に来てみなければ知ることができないことを作ることによって、島外の人々は与論島に行きたいと思うようになるのではないかと考える。

また、与論島は、島の約53パーセントが農耕地であることから、農業をもっと盛んにして島の収入を増やしていかなければならないと考える。今回島のたくさんの方々からお話を聞く中で、どうしても観光からの収入に頼ってしまっている部分があるのではないかと感じた。ただ単に農作物を育てるのではなく、それに付加価値をつけるなどして、単価を上げていく作戦が必要になると思う。そのためには安定した原料の供給が必要であるなど、課題も多く残っているが、議論を早急に進めていく必要があると考える。

加えて、与論島では水産業が盛んでもあるので、水産業の発展も重要である。与論島の水揚げ高は、想像していた漁獲量よりもはるかに多く、とても驚いた。これを島外に輸出できればさらに収入は増えていくのだが、離島であるため、どうしても生ものの輸出には限りが出てくる。そこでこれらも農業と同様に、水産食品に加工するなどして付加価値をつけていくことが必要だと思う。島には工場が少なすぎるのではないかと、思ったのが、私が与論島を周ってみての感想である。黒糖の生産だけではこれからの時代厳しくなってくると思う。地域の特産品を生かして付加価値をつけられる場所がもっと増えていけばよい。

最後に、若い人の活気があふれる島にしていくことが必要なのではないかと考える。若者のほとんどが高校卒業と同時に島を出ていくのは、島にとってマイナスなことが多い。若者がもっと島に残って就職ができるように、大きな企業を誘致したりすることが必要になってくるのではないかと考える。また、与論島出身の若者だけでなく、鹿児島大学を中心とした県内の大学生が、与論島に来て研究や実習を行いたい、またそれ以外の若者たちも、与論島に来て、与論島の発展のために何かしたいと思えるような島づくりが大切であると思う。それによって若者の島への定住を増やしていく必要がある。鹿児島大学の一学生としては、鹿児島大学与論島活性化センターをもっと有効活用できれば、島に来て、研究、実習をする学生が増えるのではないかと考える。

与論島は、小さな島であるが、人の大きなやさしさであふれた島だと感じた。これは、実際に与論島に来なかったら感じられなかったものだと思う。今回私が自分なりに考えたことが少しでも島の発展のために役立ち、与論島を訪れる人が増え、その人々が、与論島の人たちのやさしさに気付いてくれれば良いと考える。

今回は貴重な機会をいただき、ありがとうございました。